

おやこの広場通信



はらっぱ NO.28



例年よりずいぶん暖かい秋でしたが、さすがにこの頃は、寒くなってきました。手洗いとうがいの励行で、風邪にならないよう、気をつけていきましょう。 今月は、先日行われました「音楽遊びとお話の会」の特別プログラムのときの子もたちの様子をお知らせいたします。お母さまと離れて過ごしたのは、30分ほどでしたが、改めて子どもたちの成長を感じることができました。

<11月のおやこの広場から...>

ルンルン

久しぶりに参加したAくんは、お母さまと離れても、ブロックでよく遊んでいました。時折り顔をあげて、体を少し揺らしています。BGMで流していた童謡に耳を傾け、リズムをとっているようでした。ブロックをしながら、ニコニコしていたAくんの笑顔が印象的でした。

わたしだって...

いつもは、お母さまと離れて遊べるBちゃんが、どうしたわけかお母さまの姿が見えなくなると、泣き出してしまいました。どんなになだめても、「ママ～」と泣くばかり...。結局、お母さまの居場所を確認して、ようやく落ち着きました。いつも元気なBちゃんの、意外な一面が見られた出来事でした。

僕たち大丈夫だよ

線路が大好きな男の子5人は、早速線路にとりかかり、黙々と繋げていました。いつもは、誰かしら大人がいるのですが、その時はたまたま泣いているお子さんに大人の手がとられていたので、そこにいたのは、子どもたちだけでした。それぞれが線路を繋げ、思い思いの汽車で遊び始めましたが、特に争うこともありませんでした。それはまるで「大人たちは、忙しいのならばかたない。僕たちは、喧嘩しないでちゃんと遊べるよ」とでも言っているかのようでした。

なかなかの大物？

線路で遊んだCくんは、おやつもいつも通り食べ、エプロンシアターの「まんまるちゃん」も楽しく見ることができました。そしていつの間にか隣りにやってきたお母さまと、最後に一緒に絵本を見ました。いつもなら、見えるところにいるはずのお母さまがいなかったのが、とっても不思議だったのでしょうか。隣りに来たお母さまに「ママ、どこ行ってたの？」と聞き、また、楽しく過ごせたことも報告できたようです。



でんごんぱん

*クリスマス会:12月7日(金)は、クリスマス会です。親子でクリスマスをお祝いしましょう。

*2学期は、7日で終わりです。3学期は、1月11日(金)から始まります。楽しい冬休みをお過ごしください。

<こんな時どうしますか？>



自分で考えて行動して欲しいと思ったとき

先日、ある会員の方から、「そろそろ、自分で考えて行動する習慣を身につけて欲しいと思って、最近はあるべく口出しせずに行っているのですが、とにかく(行動を起こすまでに)時間がかかるんです。時間にゆとりがない時などは、ついイライラしてしまいます。口出しせずに待っていたら、いつかは自分から動き出してくれるようになるのでしょうか」というご相談を受けました。同じような悩みをお持ちの方も多くおられるのではないのでしょうか。特に、来春に幼稚園入園を控えていらっしゃるご家庭では、そろそろこうしたことを意識し始めておられるのではないかと思います。

このようなことは、時間が経てば自然にできるようになるかと言うと、かなり長期的な展望の中ではありえないことではないかもしれませんが、しかし、日常的にいろいろと口出しをしてきたと認識されていらっしゃるのでしたら、それはなかなか難しいことだと思います。今までお子さんの行動に対して、一つ一つ指示していらしたのであれば、お子さんは当然、今度も指示されることを待たれるでしょう。それをいきなりある日突然、「さあ、自分で考えて行動してごらんなさい」と言われても、お子さんは戸惑ってしまいます。ですから、何も声を掛けずに待っていても、時間が解決するというわけにはいかないのです。自分で考えて行動するためには、まず経験を積むことが大切です。

もしもここまでお読みになって思い当たることとおありでしたら、まず手始めになさることは、お子さんに何か行動してもらいたいと思われた時、そのことを一つだけおっしゃってみてください。「おやつを食べるから、手を洗っていらっしゃい。」ここでのポイントは前半の「おやつを食べるから」です。ただ「手を洗っていらっしゃい」だけでは、お子さんは指示されたことに対してそのまま動くだけですが、“何のために何かをする”という図式を示してあげることで、少しずつ物事の過程を経験から知り、積み重ねていくことができるのです。そのことがやがて、「おやつにしましょう」と言われたら、自分で手を洗いにいけるようになることに繋がっていくのです。しかしすぐにそうならないことも、年齢や経験、性格などの違いから生じる場合もありますから、そんな時にはもうワンステップ、「おやつにするけど、どうしたらいいかな？」と行動のヒントを与えてみましょう。単に指示を与えるのではなく、自分で考えるきっかけを与えてあげることで、考えて行動することに繋がっていくのです。ですから、外に出かける前や帰ってからの身支度、寝る前や起きた後、ご飯の前や後の行動など、毎日繰り返す何種類かの生活習慣のいろいろなパターンの中で、実体験として積み重ねてみてください。きっとそのことが、行動を起こす時に自分で考えるという力を少しずつ育てていくことになることでしょう。

しかし、今の時期にはくれぐれも欲張らず、一つの行動のために一つだけの指示を示した言葉掛けをすることを大切にしていきたいと思います。そのことがある程度熟練してきた段階で、二つの指示を一度に出して試してみようということに進めてみてください。もちろん、お子さんが、朝起きたら何と何をするか、出かける前に何と何をかなどが、自分で考えてできるようになれると嬉しいですね。けれども、これは最終的には幼稚園時代の間にはマスターできるようにしよう...くらいの気持ちでいいと思います。

その下地となるために、特別な訓練をする必要はないのです。毎日の生活の中で少しだけ、今は周りの大人の方のちょっとした意識や言葉掛けの変換、そしてお子さん自身の行動や考える時間を見守って待つてあげて心をかけていきましょう。それだけでも、きっとお子さんの行動に変化が見えてくるはずですよ。

お子さんの大きな自立に向かって始める助走のスタートを、ご一緒に支え、見守ってまいりましょう。

ペットボトルのキャップ回収にご協力ください

皆さんがペットボトルのキャップを集めてくださると、それをリサイクル業者に売った売却益をJCV(世界の子どもにワクチンを委員会)に寄付し、それをユニセフがワクチンに換えて、必要な国々に送ってくれます。

ペットボトルのキャップは、きれいに洗って乾かしてから持って来て下さい。